

## 継続的専門能力開発(CPD)認定登録書(参加学習型)

プログラム番号	—
教育形態	講演・勉強(研究会)
プログラム名	○キャリア・サポート研究会 ※平成24年度から平成27年度の研究会「キャリア・サポーター対象『研究啓発・交流会』」を平成29年度から一新して開催。
主催者(団体)	○一般財団法人 職業教育・キャリア教育財団(以下「財団」)
協賛・後援	—
開催日程	不定期(年1回) ○平成30年度の開催日程は次のとおり。 ・平成30年12月14日(金) ※平成29年度(実績)は別紙1「案内・実施要項」(日時)を参照。
総時間	講演・勉強会時間は合計4時間(1日間)。 ※平成29年度(実績)は別紙1「案内・実施要項」(日時)を参照。
開催場所	不定(東京会場1回) ○平成29年度の開催会場は次のとおり。 ・アルカディア市ヶ谷 ※平成29年度(実績)別紙1「案内・実施要項」(会場)を参照。
対象者	○「未来ノート」を持参(持っていない者は注文が必要)し、全プログラムへ参加が可能な次のいずれかの者。 ・キャリア・サポーター認定者 ・「未来ノート」購入者および活用品 ・「未来ノート」研修会参加者 ・「未来ノート」導入の検討者 ※平成29年度(実績)は別紙1「案内・実施要項」(対象、参加にあたってのお願い)を参照。
定員	24名 ※原則として先着順。 ※平成29年度(実績)は別紙1「案内・実施要項」(定員)を参照。
題目	キャリア・サポート研究会—「未来ノート」を活用したキャリア教育の事例と模擬授業—
プログラム(次第)	○プログラムは次の項目の流れ(講義+事例紹介+個人ワーク+グループワーク)で進行。 ①ワークブック「未来ノート」について(開発意図、全体構成、教員用ガイド、授業運営など) ②「未来ノート」を使った授業の実際(導入の経緯、カリキュラム例、所感など) ③LTD 話し合い学習法による教員用ガイドの理解(ピアラーニング、グループ内模擬授業) ④まとめと質疑応答

	<p>※平成29年度(実績)は別紙2「タイムテーブル」を参照。</p> <p>○講師、進行は財団のキャリア・サポート事業運営委員会の委員、キャリア・サポーター養成トレーナー、「未来ノート」導入校の担当者等。</p> <p>※平成29年度(実績)は別紙1「案内・実施要項」(ゲストスピーカー、ファシリテーター)を参照。</p>
内容	<p>学生が主体的にキャリア形成に取り組む姿勢が持てるよう支援する教材として財団が開発した「未来ノート」を、全学的にキャリア教育に活用している専門学校の事例を通して、キャリア教育の進め方、効果の上げ方を紹介するとともに、アクティブ・ラーニングの手法を用いながら、「未来ノート」の教員用ガイドへの理解を深め、実際に模擬授業を体験する。</p> <p>※平成29年度(実績)は別紙1「案内・実施要項」(前文)を参照。</p> <p>※平成29年度(効果)は別紙3「『キャリア・サポート研究会』レポート」を参照。</p>
プログラムの目標	<p>○キャリア教育の重要性への認識を深め、ワークブック「未来ノート」を活用した授業開発と運営の仕方を理解する。</p> <p>○「未来ノート」を使ったキャリア教育の授業の事例紹介を通して、授業計画と授業の実際を具体的に実感する。</p> <p>○「未来ノート」のコンセプトとアクティブ・ラーニングによる学習法について理解を深め、授業運営の一部を体験する。</p> <p>※平成29年度(実績)は別紙1「案内・実施要項」(目的)を参照。</p>
CPD点数	20点
料金	<p>無料</p> <p>※平成29年度(実績)は別紙2「案内・実施要項」(受講料)を参照。</p>
備考(問い合わせ先)	<p>一般財団法人 職業教育・キャリア教育財団 事務局 総務課</p> <p>TEL:03(3230)4814 FAX:03(3230)2688</p>
詳細URL	<p>一般財団法人 職業教育・キャリア教育財団の研修研究事業を紹介するページのURLは以下のとおり。</p> <p><a href="http://www.sgec.or.jp/scz/business/business_frameset.html">http://www.sgec.or.jp/scz/business/business_frameset.html</a></p>

# キャリア・サポート研究会のご案内

## ～『未来ノート』を活用したキャリア教育の事例と模擬授業～

最近では就職状況の好転を反映して、売り手市場と言われていますが、それに伴って学生の就職に対する姿勢にも、気のゆるみが見えると嘆く関係者が多くなっています。

そのため、キャリア教育への関心が今まで以上に高まってきていますが、就業への積極的な意欲を喚起するには、自らが働く目的に気づける主体的・対話的で深い学びの手法が必要です。当財団では、ワークブック『未来ノート』を開発して、学生が主体的にキャリア形成に取り組む姿勢が持てるよう支援しています。

今回、全学的に290冊を超える『未来ノート』を購入して、キャリア教育に活用している東放学園音響専門学校<sup>（注）</sup>の事例を通して、キャリア教育をどのように進めれば効果が上がるのかを紹介致します。

また、アクティブ・ラーニングの手法を用いながら、『未来ノート』の教員用ガイドの活用についても理解を深め、実際に模擬授業を体験して頂きます。



### 実施要項

#### 【1. 目的】

- ①キャリア教育の重要性への認識を深め、ワークブック『未来ノート』を活用した授業開発と運営の仕方を理解する。
- ②『未来ノート』を使ったキャリア教育の授業の事例紹介を通して、授業計画と授業の実際を具体的に実感する。
- ③『未来ノート』のコンセプトとアクティブ・ラーニングによる学習法について理解を深め、授業運営の一部を体験する。

#### 【2. 対象】

- ・キャリア・サポーター認定者
  - ・『未来ノート』購入者および活用者
  - ・『未来ノート』研修会参加者
  - ・『未来ノート』導入をご検討の方
- ※全プログラムへの参加が前提となります。

【3. 日時】 平成30年2月15日（木）13:00 ～ 17:00

【4. 会場】 アルカディア市ヶ谷  
〒102-0073 東京都千代田区九段北4-2-25  
Tel:03(3261)9921  
<http://www.arcadia-jp.org/top.htm>

【5. 申込期限】 平成30年2月5日（月）締切

【6. 受講料】 無料

【7. 定員】 24名（原則として先着順といたします。）

#### 【8. 申込方法】

裏面の受講申込書に必要事項をご記入のうえ、ファクシミリ [03 (3230) 2688] にてお申込みください。

#### 【9. プログラム】

時間	内容
13:00	開会のあいさつ キャリア教育と新しい学習法
13:20	ワークブック『未来ノート』について ・開発意図、全体構成、教員用ガイド、授業運営 etc (休憩)
14:10	『未来ノート』を使った授業の実際 ・導入の経緯、カリキュラム例、所感、質疑応答 (休憩)
15:30	LTD話し合い学習法による教員用ガイドの理解 ・ピアラーニング ・グループ内模擬授業
16:40	まとめと質疑応答
17:00	閉会のあいさつ、アンケート

#### 【10. 参加にあたってのお願い】

- ・**受講にあたり『未来ノート』を使用します。必ずご持参ください。**
- ・『未来ノート』をお持ちでない方は、事前にご購入ください（定価¥900+税、別途送料）。購入を希望される方には、申込受付完了後に購入手続き等についてご案内いたします。
- ・研究会風景の写真の一部を広報に使わせて頂く場合があります。不許可の方はその旨をお伝えください。

#### 【11. 主催・お問合わせ先】

一般財団法人 職業教育・キャリア教育財団 総務課 <sup>クラブ</sup> 部  
〒102-0073 東京都千代田区九段北4-2-25私学会館別館11階  
電話 03 (3230) 4814

ゲストスピーカー  
岡村 朗氏

学校法人東放学園  
東放学園音響専門学校 学務管理部  
進路指導担当主任



<プロフィール>

放送・電気工学系専門学校を卒業後、テレビ局（地方局）において勤務する。その後、東京キー局の番組制作で技術者として長年携わる傍ら、新入社員研修などを担当し、後輩の育成に尽力する。また、養成マニュアルなども執筆し、それは現在でも在籍した企業で使用されている。

現専門学校において、映像技術に関する講義や実習を担当しながら、専門学校の使命である「就職させる」ためにどうしたら良いかと常に考える中、本財団の「キャリア・サポーター養成講座」と出会い、キャリア・サポート・マインドの重要性を知る。

併せて未来ノートを使用したアクティブ・ラーニングに本年より取り組んでいる。

好きな言葉は、「勇氣=言う氣」。言にくいことこそ、声に出して話をしよう、と学生に常に投げかけている。

ファシリテーター  
財津 香壽子氏

キャリアサポート・オフィス一歩 代表



<プロフィール>

大学卒業後、朝日新聞社に勤務の後、企業の人事および人材開発を担当。その後、専門学校の副校長職を歴任し、学生や社会人のキャリア教育・支援やキャリアコンサルティングを実施して、社会で活躍できる人材の育成に尽力する。

平成28年にキャリアサポート・オフィス一歩を設立し、大学・専門学校・高校のキャリア教育を推進している。

その他、本財団のキャリア・サポート事業運営委員、キャリア・サポーター養成トレーナーを務め、未来ノートおよび教員用ガイドの改訂を行うなど、その普及に務めている。

<資格>

- ・1級キャリアコンサルティング技能士（国家検定）
- ・キャリアコンサルタント（国家資格）
- ・産業カウンセラー（日本産業カウンセラー協会）

## キャリア・サポート研究会

### ～『未来ノート』を活用したキャリア教育の事例と模擬授業～（無料）受講申込書【F A X】

※プリントアウトしてご利用ください

都道府県名		学校名			
都・道 府・県					
申込 担当者	氏名	TEL			
	e-mail	@			
受講者ご芳名（生年月日）		部署・役職名等	教員・職員	性別	『未来ノート』の 購入の必要性
いずれか1つに○を記してください					
①	フリガナ 西暦 年 月 日生		教員・職員	男・女	必要・必要ない
②	フリガナ 西暦 年 月 日生		教員・職員	男・女	必要・必要ない
③	フリガナ 西暦 年 月 日生		教員・職員	男・女	必要・必要ない

\*お書き頂いたお名前等は、本研究会・運営にのみ使用し、第三者への提供はいたしません。

\*F A Xでお送りいただく際は、送付状は不要です。本紙のみお送りください。

【お申込先】（電子メールでのお申込は受付けておりません）

TCE財団 総務課 「キャリア・サポート研究会 ～『未来ノート』を活用したキャリア教育の事例と模擬授業～」係

**FAX:03(3230)2688**

# キャリア・サポート研究会

## 本日のタイムスケジュール

開催日：平成30年2月15日（木）  
於：アルカディア市ヶ谷

時間	内容
13：00	開会のあいさつ、スケジュール説明
	キャリア教育と新しい学習法
	ワークブック「未来ノート」について ・開発意図、全体構成、教員用ガイド、授業運営
	自己紹介
14：00	休憩
14：10	「未来ノート」を使った授業の実際 ・導入の経緯、カリキュラム例、所感
	質疑応答
15：20	休憩
15：30	LTD 話し合い学習法による教員用ガイドの理解 ・ピアラーニング ・模擬授業(30分)
16：40	まとめと質疑応答

主催：一般財団法人職業教育・キャリア教育財団

### 「キャリア・サポート研究会」レポート

キャリア・サポート研究会は主として、財団が「キャリア・サポーター」として認定した教職員の自己啓発の場として設けられているが、今回は対象を「未来ノート」の購入者にまで広げて、2月15日(木)13時から17時まで開催された。第1回目の研究会では『未来ノート』を活用したキャリア教育の事例と模擬授業』をテーマに、新しい教育や学習の潮流の基本的な理解をするとともに、それを学校現場でどのように活用していけば良いのかについて理解を深めた。

具体的には、キャリア・サポート事業運営委員会の船山委員が司会運行をして、アクティブ・ラーニング型ワークブックの「未来ノート」の内容・授業運営の仕方と実際に活用している学校の事例を学ぶことにした。

#### 1. なぜ、キャリア教育にアクティブ・ラーニングが必要か

わが国の学校教育の基本的な方針を定めているのが、文部科学省の中央教育審議会である。その是非については多様な意見もあるだろうが、われわれは大なり小なり、その影響を受けることになる。そこで、キャリアやアクティブ・ラーニングについて、その教育の方向性を良く理解しておくことは重要なので、筆者より以下のような若干の情報提供を行った。

#### キャリアとキャリア教育について

中央教育審議会の答申(2011年)では「キャリア」および「キャリア教育」の概念についてつぎのように明文化している。

- ・人は「働くこと」を通して、人や社会にかかわることになり、そのかかわりの違いが、「自分らしい生き方」となっていくものである。
- ・人が生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分との関係を見出していく連なりや積み重ねが、「キャリア」の意味するところである。
- ・一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育が「キャリア教育」である。

このことから、キャリアは極めて個人の人生に密接にかかわったものなので、教職員が他の教科のように正解を教え込むことは適当ではないことがわかる。つまり、学生一人ひとりが自らの頭で自らのキャリアのあり方を導き出すことしかできない。そのために、課題に主体的に取り組み、対話の中からの深い学び得るというアクティブ・ラーニングの学習法が有効になってくるのである。

## アクティブ・ラーニングについて

中央教育審議会の用語解説（2012年）ではアクティブ・ラーニングを次のように定義している。

- ・教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。
- ・学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である。

今日、アクティブ・ラーニングが必要になるのは、基本的には学生の学びの質保証が求められており、学習目標を達成して、それを現実の社会で活用できるようになることが求められているからであり、それは、従来からの一方的な教育からの脱却なしには難しい。

なぜならば、複雑化した社会では固定化した知識の伝達だけでなく、時代の変化に対応して、様々な情報を主体的に取り込み、自分のものにしていくには、「主体的・対話的で深い学び」が求められているのである。また、キャリアのアイデンティティを確立していくためには、他者との関わりで起こった、自己の中の揺らぎから、新たな価値観や観念を再構築していく体験が重要になるからである。

しかし、アクティブ・ラーニングには、つぎのような課題があることも事実である。

- ・受け入れるための素地づくり（環境、意識、教材、授業デザイン）が煩雑である。
- ・学生に現在の価値観や考えの枠を揺さぶられることへの抵抗感がある。
- ・グループワークが活性化せず、雑談に終わることがある。
- ・学習の力に格差が出て、学びの質に格差が出やすい。
- ・教職員の技量によって、学習成果にバラつきがでる。

そのために、授業の構造化とそれを可能にする教材の開発、そして授業運営のスキルの向上が、いま以上に求められることになる。

## 2. 「未来ノート」のねらい・構成と模擬授業の体験

「未来ノート」はアクティブ・ラーニング型のワークブックとして改訂されたが、その開発目的、学習目標、学習内容の構成について、財津委員より説明が行われた。詳細については「未来ノート」の研修と重なるところがあるので省略する。

その後、ファシリテーターを努めて頂き、実際に参加者にアクティブ・ラーニングを体

感して貰う意味から、ピア・ラーニングによるグループワークを行ない、「未来ノート」の1セッションについて、その「教員用ガイド」の理解を深めた。

ピア・ラーニングは協同学習の概念の一つであり、池田玲子（東京海洋大学）はつぎのような特徴を挙げている。

- ・ピア（peer:仲間）と協力して学ぶ（learn）方法で、知識の生成は他者と働きかけあう中で影響を受ける。
- ・学習者自身による主体的な学習を重視した実践方法である。
- ・仲間との相互作用によって、理解の深化がもたらされる。
- ・「他者」によって、「対象」への考え方や理解に対して、「自己」の変容が促される。
- ・学習者が自律的・創造的に学ぶことが出来るように、教員は引き出しのサポート役に徹する。

今回、ピアで学んだ1セッションについて、ILP お茶の水医療福祉専門学校（福岡県）の歌野裕子氏が自発的に先生役となり授業運営を行い、他の受講者が生徒役になって模擬授業を体験したが、「未来ノート」についての理解がより促進されたものと思う。

### 3. 「未来ノート」を活用している東放学園の事例紹介

東放学園は毎年、約290名の学生に「未来ノート」を活用して、キャリア教育を行っている。その事例を進路指導担当主任の岡村朗先生から実際の授業についてご紹介頂いた。詳細については、後日、根本委員が専門学校新聞の「キャリア教育のヒント」シリーズに寄稿する予定なので、掲載されたらキャリア・サポートニュースで紹介したいと思う。

キャリア・サポート事業運営委員長 小野 紘昭（記）